



ガザでの23日間「戦争」は、一旦休戦に入った。今回の大規模戦闘では、2人の勝者と1人の敗者が出た。勝者は、イスラエル軍とハマスである。唯一の敗者は、ガザの住民とインフラ。「見える戦争」は一時中断したが、「見えない戦争」は継続中である。約1300人とされた死者数は、現地調査が進展したこともあり、21日時点で1,284名（民間人894名：子供280名、女性111名含む）とやや下方修正された。7割が民間人、3割が戦闘員・警察官になる。パレスチナ側の人権機関は、戦闘員の死者は390名（警察官167名、戦闘員223名）としているが、ハマスは、戦闘員の死者数は58人程度だったと主張、イスラエル軍は500人以上を殺害したと宣伝している。

イスラエル軍は、ガザから撤退したが、隣接する地域に待機中。ロケット弾攻撃が再開すれば再度攻撃を再開する構えを維持している。ハマスは、組織が殲滅されなかったことで「歴史的な大勝利」だと強弁している。在外ハマス指導者メシャルは、ハマスの大勝利を受けて、欧米諸国にハマスを認知し、復興援助の受け皿として認めるよう要求している。過去2年間で、ハマスは、統治者（行政担当者）意識と能力が欠落していることを示してきたが、今回は事実認識能力の欠落も露呈している。

ガザ住民に対する支援の機運は増大しているが、実際の支援の動きに直結していない。イスラエル軍は、人道援助の通過は承認するが、建設資材などハマスに活用される恐れのある資材搬入には難色を見せている。国連は、建設資材なしで復興はできないとしている。アラブ連盟諸国、EUなどが財政支援を表明しているが、パレスチナ側での援助の主体・受け皿は確定していない。ハマスは、エジプト国境地帯でのトンネル復興を開始したようだ。

## 見えない戦争

中期・長期の停戦交渉は、22日から活発化している。イスラエル側で停戦交渉を担当している国防省のギラード軍事局長は、22日エジプトを訪問した。エジプト側で仲介を担当しているスレイマーン諜報長官らと協議した模様である。週末には、ハマス代表団がエジプトを訪問して協議を行う予定。

協議の中心は、境界（国境）の再開とガザへの武器密輸禁止メカニズムの構築。エジプトは、自国領内での国境監視に外国の関与を嫌っている。そのためエジプトは国境への兵力・警察力増強を希望しているが、イスラエルはシナイ半島にエジプト軍が増大することを徹底的に反対している。ガザ側での監視体制構築には、パレスチナ側での受け皿が必要であるが、それに相当する組織は存在しない。ハマスの武器密輸を監視するシステムの受け皿にハマスになることはない。パレスチナ側に埋め皿ができない場合、国際的な受け皿が創設されるかもしれない。エジプトは、ファタハとハマスの和解協議も仲介しているが、国民対話の再開は、まだ視野にない。

パレスチナの冬は寒く、雨も多い。ガザ住民は、パレスチナ行政の保護もなく、自活する道もない。当面、国連を軸として緊急支援でしのぐしかない。ハマスの「歴史的勝利」の代償は、ガザのパレスチナ人が支払いを強要されている。彼らが、今回の「戦争」を勝利と見るか敗北と見るかで、今後のガザ情勢は大きく変わるだろう。